

事務事業名	コード1	0770	家族介護慰労金支給事業	課	高齢者福祉課					
	コード2			所属班	高齢者班					
			<input type="checkbox"/> 主要事業	電話番号	62-5350	内線	175			
政策体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	予算科目	会計			款	項	目
	施策	4	高齢者福祉の充実		一般会計			03	02	03
	施策の展開	5	在宅福祉の充実	根拠法令	旭市家族介護慰労金支給要綱					
	基本事業	170	介護老人福祉手当支給事業							

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 17 年度～ <input type="checkbox"/> 開始年度不詳  <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	65歳以上の寝たきり高齢者を、常時介護している介護者の在宅介護に係る負担の軽減を図り、寝たきり高齢者の福祉の増進を目的として慰労金を支給する。 ・慰労金額:8,000円、10月と4月の2回支給する。 ・介護保険料及び市税等を滞納していない世帯であること。  <b>【業務の流れ】</b> 申請受付 支給事務(入退院及び施設入所・認定更新状況・死亡・他手当受給等・市税等納付状況調査)→滞納者に納付依頼→納付確認→支給決定(10・4月)→支給

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	26年度(計画)
家族介護慰労金 在宅の寝たきり高齢者を常時介護している家族介護者に 月額 8,000円支給 144人 1,081月(8,648,000円)	千円	12,130	9,056	8,648	9,608	0	0
② 延べ業務時間の内訳	千円	12,130	9,056	8,648	9,608	0	0
申請受付、台帳作成、調査、結果通知 230時間 介護認定更新状況、施設入所、入退院、死亡等調査 110時間 滞納者納付状況確認、支払 110時間	人	0.22	0.22	0.22	0.22	0	0
	時間	450	450	450	450	0	0
	千円	1,710	1,710	1,710	1,710	0	0
	千円	13,840	10,766	10,358	11,318	0	0

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	26年度(計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 申請受付、介護保険料・市税等納付状況調査 支給決定(非決定)通知 支給事務	ア 慰労金支給者数	人	136	142	144	156		
	24年度計画(24年度に計画している主な活動) 申請受付、介護保険料・市税等納付状況調査 支給決定(非決定)通知 支給事務	イ 申請受付数	件	60	70	66	64		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	26年度(計画)
	要介護度4以上かつ寝たきり度B2以上に該当する在宅の寝たきり高齢者を常時介護している介護者	ア 要介護4以上の高齢者数	人	664	736	728	715		
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	イ 要介護度4以上の在宅の65歳高齢者数	人	286	307	302	295		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	26年度(計画)
	在宅高齢者福祉の充実	ア 慰労金支給金額 (精神的・経済的負担の軽減)	千円	12,130	9,056	8,648	9,608		
		イ ( )							
		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	26年度(計画)
		ア 支給者/要介護度4以上の在宅の高齢者 (支給割合による充実度)	%	47.5	46.2	47.6			
		イ ( )							

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
寝たきり高齢者を、常時介護している介護者の在宅介護に係る負担軽減を図り、寝たきり高齢者の福祉の増進を図る。	・平成21年度までは、介護老人福祉手当支給事業として実施 支給額 月額10,650円 平成21年度末で廃止 ・平成22年度から家族介護慰労金支給事業として実施 支給額 月額8,000円 日常生活自立度(寝たきり度)を設ける	特になし

事務事業名	家族介護慰労金支給事業	課名	高齢者福祉課	班名	高齢者班
-------	-------------	----	--------	----	------

## 2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつきか？意図することが上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 在宅の寝たきり高齢者を介護する者に慰労金を支給することにより精神的・経済的負担の軽減を図れる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 要介護者の増加により、支給額が毎年増え続けることが見込まれるので、所得または課税状況等に応じた支給基準の導入について検討する必要がある。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 日常の介護に係る経済的負担の軽減と、在宅福祉の増進を図れる。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 介護保険サービスを利用することで、介護の負担が軽減されていると思われることから支給要件をサービス利用を含めた見直しの余地がある。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	<input type="checkbox"/> 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】↷ 現在収入要件がないため、介護することで働きに行けないなど収入の無いものを対象にした支給要件等を設ける必要がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：( ) (2) <input type="checkbox"/> 統廃合ができる ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 連携ができる ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 他に類似事業がない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 支給対象者を見直すことにより、事業費の削減が見込まれる。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 必要最低限の人員で対応しているため削減余地なし。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 有所得者または、課税世帯等に対し、支給基準を設ける必要がある。

## 3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	ある程度収入のある世帯でも給付を受けていることから、所得または課税状況等に応じた支給基準を設け、支給対象者の見直しを図る必要がある。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2~3年後を目処にした方向性	(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善による成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善による事業費削減 <input checked="" type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 廃止・休止	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持	○																				
	低下																					
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																						
① 近隣市町村(銚子・香取・匝瑳市)の支給要件等の調査を行う。 ② 25年度中に支給要件(対象者を非課税世帯にする・介護サービス利用者を支給要件から除く等)の検討 ③ 26年度支給対象外となる者に対し、周知・説明を行う。 ④																						
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
① 支給基準を設けた場合、支給対象外となる者の反発が予想される。理解が必要。 ② 十分な周知、説明を行う。 ③ ④																						